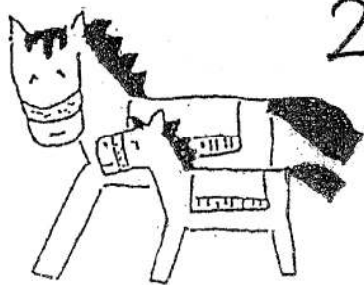


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちはまじ
ポクリポクリと。

21年 2月 NO.171



〒 760-0044

香川県高松市御坊町2-2

高松保育園内 地域子育て支援センター

TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857

<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～ 2月のプログラム ～お気軽にどうぞ～

2月 3日	火	節分の行事において 10:30～11:30	みんなで豆まきをして 鬼退治をしましょう。
2月 7日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
2月 14日	土	木工教室 14:00～16:00	オリジナル作品を作って みませんか。
2月 19日	木	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	3月29日(日)の矢崎先生の 講演会について色々話し合います。
2月 21日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も育児体験に おいでてください。
2月 21日	土	リフレッシュ講座 14:00～16:00	簡単なエアロビクスで体を 動かしてみましょう。
2月 27日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	小児科医師にゆっくり 相談できます。(予約要)

育児相談(月～土) 9:00～18:00

しつけや子育てについての悩み、保育園生活、入園・見学についての相談もどうぞ。

お祖母様と浄瑠璃



縫いものをしながらお祖母さまは、
いつもおはなし、きかせました。

おつる、千松、中将姫……、
みんなかなしい話ばかり。

お話しながらお祖母さまは、
ときどき浄瑠璃をきかせました。
それはかなしい調子でした。

中将姫をおもうせいか、
そのことはみんなみんないや、
雪の夜のようにおもわれます。

それもう遠いむかし、
うたの言葉はわすれました。

ただ、せつない、ひびきばかり、
ああ、いまも、水のように、
かなしくしずかに沁みてきます。

さらさらと、さらさらと、
ふる雪の音さえも……。

金子みすゞ童謡全集より

21年3月29日(日)の午後、金子みすゞさん(童謡詩人,1903~1930)の魅力を全国に広めつづけている矢崎節夫氏とみすゞさんの娘さん(ふさえさん)との対談と講演会を市民文化センターで開催する予定です。1月と2月は「みすゞさんのうれしいまなざし」という矢崎氏の著書より少しご紹介します。

雲のこども

風の子供のいるところに、
波の子供はあそびます。

波の大人のいるところにや、
風も大人がいるのです。

だのに、お空を旅してる、
雲のこどもはかわいそう。

大人の風につれられて、
いきをきらしてついてゆく。

金子みすゞ

『雲のこども』を読むと、息子が小さかったころの近所のおじさんのひとことを思い出します。

私は手をつないで歩くのが好きで、散歩をする時、いつも息子と手をつないで歩いていました。いえ、歩いていると思ったのは、私側からの考え方で、息子から見ると、いつも一生懸命小走りについてきていたのです。しかし、そのことに気づかずに、いつも自分の速さで歩いていたのです。

と、ある時、息子と私のうしろから近所のおじさんの声がしたのです。

「せっちゃん、もっとゆっくり歩いておあげよ。坊やが空中に浮いてるよ」

これまで一度だって、そんなことを考えたことはありませんでした。息子はしっかり私について歩いているとばかり思っていたのです。でも、うしかろか見ると、息子は懸命に空中に浮きながらついてきていたのです。

[大人の風につられて、／いきをきらしてついてゆく。]だったのです。

どうして、こんなことが起こったのでしょうか。

私は私の手のつなぎかたをしていたということでしょう。大人の私が小さい人と手をつないでいると考えるつなぎかたは、じつは小さい人たちから見ると、ぎゅっと離さないように捕まえているのと同じだったのです。捕まえられている息子は、必死に空中を走って私についてきてくれていたのです。

以前、幼い迷子さんを見つけた時、婦警さんはしゃがんで下からその子の顔をのぞき

こむようにして話し、一緒に歩く時は人差し指一本だして、迷子さんがその指をぎゅっとにぎって歩くようにしている、と聞いたことがあります。さすがにプロはちがうなと思いました。

若い人たちから見れば、“大人の指一本”の大きさが、自分で手をつないでいると実感できる大きさだったのですね。

それからは、車のこない安全な場所では、息子と私の散歩は指一本になりました。

指一本のおかげで、私の歩く速さは息子の歩く速さにかわりました。“指一本の速さ”は、息子と私にとっての、そして幼い娘にとってのうれしい速さになりました。

散歩だけではなくて、大人側からしか見てないな、と思えることがたくさんあります。

朝の混雑した電車に、ベビーカーで乗りこんでくるお母さん、混雑したバーゲン会場に、ベビーカーを押しながらくる若いご夫婦……赤ちゃんから見ると、見えるのは大人の足、吸うのは足もとのよごれた空気です。

抱っことおんぶだって、見える方向がちがうのです、抱っこされている赤ちゃんが見えるのは、いつもうしろに流れていく景色です。おんぶだと、お母さんの顔の高さで、同じ景色が見えるのです。私が赤ちゃんなら、お母さんのゆったりとした抱っこは大好きですが、お母さんが歩く時は、おんぶのほうがうれしいです。たまに前向きのだっこを見ることがありますが、赤ちゃんは空中を漂っているように見えます。

「お母さんと赤ちゃん」「親と子」ではなくて、「赤ちゃんとお母さん」「子と親」と大人のまなざしをかえないと、未来の大人である若い人たちに申し訳ない気がします。

その子がお母さんをお母さんにしてくれたのですから。その子がお父さんをお父さんにしてくれたのですから。我が子が生まれてくれないかぎり、大人は誰も親にはなれないのですから。

[風の子供のいるところに、／波の子供はあそびます。／／波の大人のいるところに、／風も大人がいるのです。]と、みすゞさんはうたってくれています。

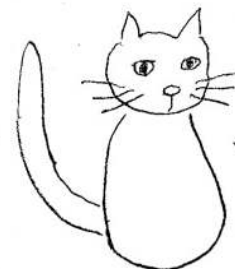
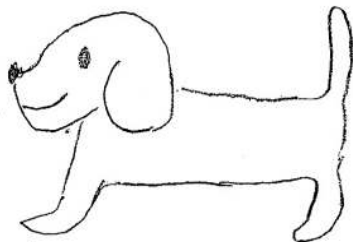
子どもには子どもの、大人には大人の、場所と時間があるということでしょう。

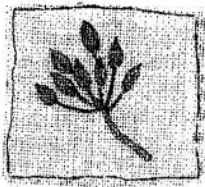
幼稚園や保育園は、子どもにとって楽しいところでしょう。

それにしても、大人の労働に合わせて、子どもが園で8時間も9時間も毎日長い時間を過ごすということは、大人の8時間労働に比べても、過剰労働といえるのではないのでしょうか。心配です。

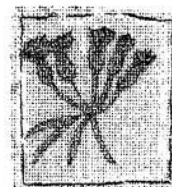
そのことに気がついてくれて、お迎えにきたお母さんがぎゅっと抱きしめてあげてくださるといいなと思います。

おかあさんのぎゅっとは、“魔法の力をもっている”のですから。





津田高校 職場体験感想記



昨年から高校生が職場体験で来るようになりました。ことしも津田高校から5人の学生さんが3日間体験をしました。中学校は3校から来るようになりましたが、大いに乳幼児とふれあって、幼い頃のことに思いをはせながら、ここまで成長したことに感謝し、自分を大切にしたいと願っています。

つぼみ青 — こどもたちを抱き上げると重くてびっくりした。跳ぶとキャハッハッと笑いだっことせがまれた。言語が未発達の子どもと話をしたり遊んだりしてだんだん子どもへの気持ちがわかるようになりコミュニケーション力を養うことができた。

つぼみ赤 — こどもたちが寝ている間もたくさんの仕事をしていて、子どもたちの見ていないところでも先生方は子どもたちを支えているんだなと思った。私も昔はこうして、たくさんの先生方や地域の方々や家族に支えられていたんだと思う。昔の私はただ楽しく遊んでいただけだったので感謝の気持ちを伝えていないから今からでも伝えていきたいと思った。先生方の作った小物やかざりなどにとっても愛情がこめられていて、とても心地よかった。朝起きる時はいつもはモタモタしているが子どもたちに早く会いたいと思いつぐ起きることができた。

はと — 外で楽しそうにして遊んでいる子どもの姿を見るととても元気になるかんじがした。帽子をかぶせた時に見せてくれた笑顔は見るだけでとても暖かい気持ちになった。

つくし — こどもたちが泣いていても話かける勇気がでなかったり、おもちゃのとりあいをして怒ったり泣いたりしている時もどう声をかけたらいいのかわからなかった。保育士はこどもとただふれあって遊んだりすることが仕事だと思っていたが、遊ぶ以外にも排便や食事の介助、連絡ノートなどたくさんの仕事があって大変だと実感した。1人1人ちがった感情や性格があるので、その子どもに合った教育や接し方があることを学んだ。

ことり — 先生方はとてもベテランで子どもの接し方もすごくお手本になりました。保育士という仕事は難しく簡単になれないと思うがこどもがすきなのでがんばって保育士になり先生方みたいになりたい。